

# 事前評価報告書

事業名: 引きこもりや精神障害があり孤立状態の人に社会参加の環境を創る

実行団体: 社会福祉法人マーシ園

報告者: 社会福祉法人マーシ園

資金分配団体: 公益財団法人 東近江三方よし基金

実施時期: 2021年3月～2023年2月

対象地域: 富山県南砺市

直接的対象グループ:

間接的対象グループ:

## 概要

<b>事業概要</b>
引きこもりや精神障害があり孤立状態の人に社会参加の環境を創る。 ①引きこもりや精神障害者と家族を地域で支え、社会に繋ぐ組織を創る。 ②支援の実践を通し、各組織や個人の連携と支援能力の向上を図る。 ③支援機能の改善や創設を通し、関係者の意識と行動の変容を促す。 様々な課題を抱えた孤立者や家族が地域とつながり、安心して暮らせる社会を創る。
<b>中長期アウトカム</b>
①自助グループが設立され、引きこもりや精神障害者が集う日中活動の場がある。 ②孤立者やその世帯が地域とつながり、誰もが安心して働き暮らせる地域や社会になる。
<b>短期アウトカム</b>
引きこもりや精神障害者へのコミュニケーションサポート体制が構築されつつあり、孤立者が本心を発言できはじめている状態になる。 引きこもりや精神障害者及びその世帯へのアウトリーチ体制が構築されつつあり、孤立者・その家族がアウトリーチを受けはじめている状態になる。 引きこもりや精神障害による孤立者が、地域とのつながる場が構築されつつあり、役割を持ち地域とつながり始めている状態になる。また、活動により、協力者・賛同者が増え、地域での総働がはじまっている状態になる。

## 事業の背景

<b>(1) 社会課題</b>
引きこもりや精神障害に対応できる事業所が少なく、支援者が不足している。また、孤立者が相談を受ける場所や、成功体験ができる場所が整備されておらず、孤立者を「我がこと」として捉えない風土がある。よって、関係機関の総働でこの問題を解決する枠組みづくりを行い、地域で支え合う意識の醸成が必要である。
<b>(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況</b>
南砺市福祉課障害福祉係 精神保健福祉手帳取得者は、令和2年4月時点で360名（1級19名、2級288名、3級113名）となり増加している。 精神障害者通院医療の補助利用者は548名で手帳取得者よりも多い。医療につながることで主治医の存在、退院に向けた支援や社会復帰支援が制度化されているが不十分な面がある。 南砺市福祉課生活福祉係 生活困窮者に対応する相談窓口が、引きこもりの窓口を兼ねている。 自立相談支援事業の取組みとして、引きこもりの家族会（月1回井波のキャトル）を開催し、市役所を訪問するのを数回が高いと思う方へ個別で相談を受けている。 生活困窮者自立支援法に基づく就労準備支援事業を展開しているが、行政だけでは限界があり民間事業所との連携が不可欠である。

## 評価実施体制

内部/外部	評価担当分野	氏名	役職等
内部	評価全体の進行管理、文献調査、関係者ワークショップ、評価報告作成		事業責任者
	関係者ワークショップ、活動や会議録等の分析、関係者インタビュー・アンケート調査		プログラム・コーディネーター
外部	文献評価、関係者ワークショップ		南砺幸せ未来基金プログラムオフィサー
	行政資料、関係者ワークショップ		南砺市福祉課

評価実施概要

評価実施概要

2021年4月15日、事前評価を目的に事業実施拠点の相談支援センターあいで、南砺幸せ未来基金、南砺市福祉課と事業対象者が同一の実行団体「株式会社ガラバゴス」の関係者がワークショップを行った。参加者で事業・評価計画に関する課題などを確認し、共通認識を得ると共に必要な修正を行い、ガラバゴスや行政との連携を目指した。孤立者を社会に繋ぐ今回の事業を、全世代型地域共生社会に必要なつながりや参加支援の構築とし、南砺市の総働で孤立者の居場所づくりや就労支援などを目指すことを共通認識した。ガラバゴスも含めた福祉事業関係者や福祉課など行政との協働と共に、住民の理解と協力を得ることが事業遂行の手段であり、また地域共生社会構築へ大切な目的でもあると確認した。南砺市の住民自治組織である31地域づくり協議会との連携強化を重視し、地域づくり協議会へ地域における孤立者の洗い出しを依頼し、専門職や行政と協力して行う取り組みを通し、住民の意識改革と行動変容を促し、評価することを確認した。

自己評価の総括

事業・評価計画に関して関係者と共にワークショップを行い、課題や事業対象、事業設計や計画の妥当性を検討した。応募前より引きこもりや精神障害者とその家族に関する問題構造や対象者を検討し、ロジックモデルを踏まえ事業や評価を計画してきた。関係者で検討した結果、全体の計画は妥当であるが、地域づくり協議会に依頼する孤立者の調査内容や取り組み方法をより良くする準備と、共に支援するステークホルダーとの連携構築と、引きこもりや精神障害に関する有効な研修計画の具現化の必要性を確認した。資金分配団体POや行政、他実行団体等と事前評価の意見交換で事業概要のロジックモデルをより明確化でき、関係者での共通認識と連携強化が進んだことは、今後の事業展開に有意義であった。

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	高い	①.引きこもりや精神障害に関する問題構造を理解しているか？ 学校や社会生活でのつまづきや現在の社会情勢も影響して、不登校、引きこもりになると考えられる。また、本人（又は家族）が引きこもり・障害者であると認めたり受け入れないため、制度上の枠組みから外れている人たちがいる。その人たちは障害者の制度に適應されなため、雇用側は最低賃金で雇わなくてはならず、負担となってしまうことがある。引きこもりも含め制度から漏れてしまっている人たち（グレーゾーン）をどうカバーするのが課題である。 問題構造の理解は事業を展開し事例を丁寧に対応することでより明確化し、解決の枠組みを構築する。 ②.南砺市に引きこもりや精神障害で孤立状態にある人がどれだけ存在するのか？ 現在、身体・知的・精神の障害手帳を持っている人の数しか把握できていない。今回の事業で、地域づくり協議会に依頼し、アンケート調査を行う予定である。この取組を通し、引きこもりなど相談に来ない対象者を、町内会長や民生児童委員など身近な住民に確認してもらう。 孤立状態にある人の把握と住民の気付きに向け、具体的内容や方法を担当課や地域づくり協議会と事前に協議する。
	②特定された事業対象の妥当性	概ね高い	③.引きこもりや精神障害のある人と家族は、どのような問題点・関心・期待・懸念などを持っているのか？ 本人は支援者に対して不信感を抱いていることが多く、家族は支援者への期待感と少しの依存心が見られる。今回の事前評価では、チームでアプローチを行い、本人にとって居場所や継続的就労も含め、一番いい方法は何かを議論していくことが必要だと共通認識した。また親同士が連携できる環境の必要性が認識され、今後事例を通し関係者で設立を目指す。 ④.引きこもりや精神障害のある人を地域に繋ぐために必要な事項を把握できているか？ 事前の関係者による会議で、引きこもりや精神障害者は地域と繋がりにくいことが確認されている。相談しやすい窓口や生活の場の近くに心地よい居場所を作り周知することも大切であり、現在南砺市の憩いのステーションマップを作成している。働くことの楽しさや経験を積める環境整備が大切であり、既存の事業所だけでなく、今回共に休職預金活用事業を進めるガラバゴスとも連携する。虐待も含め対象者の生活状況が急変した時に相談できる窓口を、住民や関係者に周知し、繋ぎやすい環境を創る。引きこもりや精神障害者の支援では受容の有無が大切であり、受容に関する分析と介入の面でも医療機関と連携する。 ⑤.総働のためのステークホルダーはだれか？ステークホルダーは、どのような関心、期待、懸念、強み、弱みを持っているのか？ 応募前に関係者が2回集まり意見交換を行い、各組織や関係者がどのような関心や強み弱みを持っているかを確認した。今回の事業開始にあたり、お互いに支援し合える体制整備も考慮し、6月に広く連携構築を呼びかける予定である。
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	概ね高い	⑥.中長期的に目指す地域像や事業完了時の目標や中間的なアウトカムを達成するための事業設計ができているか？ ロジックモデルは的確で妥当であるが、民間事業所と行政及び住民自治組織の地域づくり協議会等との良好な連携構築が今回の事業で大切であると確認した。そのため地域づくり協議会への丁寧な説明と、アンケート調査への理解と協力を得る努力が大切である。これらの取組が進めば望ましいアウトカムをもたらすと判断できる。 ⑦.アウトカムの達成状況・進捗状況を測定できる指標と目標値を設定しているか？ ロジックモデルに従い事業計画で短期アウトカムとアウトプットに目標値を明示している。事業遂行上、不確定要素も多く目標値や目標状態の達成状況は今後中間評価など行いながら検証し、必要であれば途中修正も検討する。 ⑧.目標値に対する妥当な活動内容が設定されているか？ 事業計画は適切なロジックモデルに基づいており、納得できる活動内容になっている。実効性のある活動にするためには、6月に予定している事業開始時の関係者会議で取組内容を説明し、その後の活動を通し理解を深め連携していくことが大切である。 ⑨.目標達成に向けた活動は、関係機関・住民団体・地域住民が総働したものになっているか？ 事業対象の妥当性の所で示した通り、関係者が事前に意見交換を行った。6月には広く連携を呼びかけ、各関係者が協働し取り組む総働体制を構築する。今回事前評価を共に行った資金分配団体PO、南砺市福祉課やガラバゴスとの連携を、総働体制構築のための司令塔として位置づける。
	(④事業計画の妥当性)	高い	3項目の短期アウトカムのためのアウトプットをロジックモデルから構築し、妥当性は概ね高いと判断した。各項目の事業内容と実施スケジュールも具体的に妥当と判断した。

**事業計画の確認**

**重要性（評価の5原則）**

本事業によって、「南砺地域の総働で引きこもりや精神障害等で孤立している人と家族に社会参加の環境を創ることを目指し、5～10年後に①自助グループが設立され、引きこもりや精神障害者が集う日中活動の場がある、②孤立者やその世帯が地域とつながり、誰もが安心して働き暮らせる地域や社会になる。」ことが目標（アウトカム）である。事前評価において、資金分配団体PO、福祉課、対象者同一の他実行団体などの関係者と目標（アウトカム、アウトプット）と達成への事業概要及び現状と課題を意見交換し共通認識を図った。評価においては、①関係する事業所、行政、住民組織等との会合や研修を通じた連携体制整備、②地域づくり協議会や民生児童委員等による対象者の洗い出しと住民間のつながりの醸成、③事例への取組を通し各組織や個人の連携と支援能力の向上、④活動を通し居場所や就労環境を改善、創設し、関係者の意識と行動変容等を確認する。

**今後の事業にむけて**

**事業実施における留意点**

本事業の遂行において、関係者や住民などへの周知が大切であり、市報やローカルマスコミ等での広報や地域づくり協議会への説明を行う。住民向けのアンケート調査や関係者の連携発足の会も具体化する。

**添付資料**

--